

**芋掘りイベント&ならやま里山林
自然観察 実施報告**
(森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業)

辻本 信一

平成 28 年 10 月 15 日 (土)、佐保台小学校放課後子供教室の児童 19 名、幼児 1 名、保護者 19 名の 39 名をならやまに迎え、この時期恒例の「芋掘りイベント」と森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業の教育・研修活動としての「ならやま里山林自然観察会」を実施いたしました。

スタッフとして参加した会員は 33 名。総勢 72 名が秋晴れのもと、ならやまに集いました。

午前中は、赤、青、緑、桃の 4 班に分かれ、芋のツルの長さ、重さ、ユニークな形を競うコンテストを実施。子供たちの笑顔が弾けました。

蔓の長さ優勝は 2.5m。重さは 2kg。ユニークな形のお芋比べ優勝は「さすらいの耳なしネズミ」が獲得。ネーミングの冴えに一同感嘆。



【葉っぱの福笑い】 【松ぼっくりで玉入れ】

昼食を挟んで午後からは、里山に息づく昆虫たちを題材にした昆虫クイズに始まり、サツマイモクイズ、ミラーウォーク、更に里山での自然観察の間には動物かくれんぼ、松ぼっくりの玉入れ、葉っぱの福笑いをして、みんなで楽しみながら自然の素晴らしさを学びました。

朝 10 時から午後 3 時までの時間もあつと言う間に過ぎ、閉会式が済んでからも、あちこちで子供達の名残を惜しむ声が聞こえました。

当日書いてくれたアンケートにも、「楽しかった」、「勉強になった」の言葉が溢れます。

私たちの活動が報われた瞬間です。

これからも次世代の子供達に自然のすばらしさや大切さを伝えて行きたいと思えます。

**～佐保台ファームの取り組み～
総合学習としての水稻栽培体験**

鈴木 末一

佐保台小学校 5 年生の水稻栽培体験学習は、早いもので 8 年目を迎えました。昨年までは、10 数名でしたが、今年は 23 名となり、元気っ子たちの昂ぶる声が、ならやまに鳴り響きました。

10 時にベースキャンプに到着し、挨拶に続いて稲刈りの説明を受けた後、水田で西出さんから稲刈りの実演指導。早速、南北 2 班に分かれて作業を始めました。大多数の児童は、初めて体験するだけに、稲株を刈り取るのに、鋸鎌をまるで鋸のごようにごしごしと何回も往復させて、やっと刈り取っていました。しかし、数株刈り進めるうちに、次第にこつをのみこみ、手際よく作業が進むようになってきました。

学校の校時との関係があり、約 1 時間余りではありましたが、スムーズに刈取りも終り、稲架けの要領などを聞いて、体験学習は無事終了しました。



6 月 4 日に田植えをして、7 月下旬に生育観察、そして、稲刈りと続いた一連の水稻栽培学習は、まさしく「百見は一体験に如かず」であったに違いありません。

5 月の中旬に、水稻がどのようなルートで日本へ伝来してきたのか、また、今日の日本の食糧事情は、どのような状況なのかなど、約 1 時間の事前学習会の時に感じられた表情と、体験を積み重ねている時とでは、随分と変化してきたように感じられます。それは、どの子からも、楽しく意欲的に学ぼうとする姿が読み取れるからです。

